

◆祈りへの招き

司式 今日、神は、人の苦しみと連帯してくださっています。

会衆 わたしたちは、御言葉を読み、讃美を歌い、キリストが死なれた日の追体験をいたします。

司式 苦しみは理屈で説明できることではありません。答えのないことです。

会衆 けれども、十字架において、神は、わたしたちの苦しみの中でわたしたちにお会いくださいます。

司式 わたしたちは知ることになります、この日から先、神がわたしたちと共にいてくださらなければ、わたしたちはどこにも行けない、と。

◆讃美 293「救いのぬしは罪もなしに」

◆罪の告白への呼びかけ

司式 わたしたちは、信仰において、主の御名を呼び求めるならば、わたしたちの神が、わたしたちの罪をこれ以上掘り起こされることはない、と約束されています。それゆえに、わたしたちの犯した悪を告白いたしましょう。

◆罪の告白の祈り

[中世の連祷「十字架の咎め」に基づく]

司式 この十字架は、この世界の救い主をはりつけにした十字架です。

一同 聖なる神、
聖なる全能者、
聖なる、不死のお方、
わたしたちを憐れんでください。

司式 この十字架は、この世界の救い主をはりつけにした十字架です。

一同 聖なる神
聖なる全能者、
聖なる、不死のお方、
わたしたちを憐れんでください。

司式 この十字架は、この世界の救い主をはりつけにした十字架です。

一同 聖なる神
聖なる全能者、
聖なる、不死のお方、
わたしたちを憐れんでください。

司式 「わたしの民、わたしの民、
なにゆえ、わたしを見捨てるのか？
わたしに答えよ！
わたしは、バプテスマの水を通して、あなたがたを囚われの身から導き出した。
けれども、あなたがたは、わたしを捕らえる者に、わたしを引き渡した、
わたしを死に引き渡すために。
そうして、あなたがたは、
自分の救い主を十字架にかけた。」

会衆 主よ、憐れんでください。

司式 「わたしは、あなたがたを荒野で、
天からの命のパンで養った。
けれども、あなたがたは、欲深く、
互いに牽制し合い、むさぼり合っている。
そうして、あなたがたは、
自分の救い主を十字架にかけた。」

会衆 主よ、憐れんでください。

司式 「わたしは、
あなたがたをわたしの家族だと宣言した、
わたしのぶどうの木の枝なのだ、と。
けれども、あなたがたは、
わたしが選んだ者の一人を
切り捨てている、無垢の血を流して。
そうして、あなたがたは、
自分の救い主を十字架にかけた。」

会衆 主よ、憐れんでください。

司式 「わたしは、あなたがたに
わたしの言葉を語った、
すべての者のための
わたしの愛の約束を。
けれども、あなたがたは、
わたしの預言者たちを黙らせている、
わたしの声を聞くのを拒んで。
そうして、あなたがたは、
自分の救い主を十字架にかけた。」

会衆 主よ、憐れんでください。

司式 「わたしは、
あなたがたの光となるために来た、
暗闇を打ち破るために。
けれども、あなたがたは、
暗がりのうちに留まっている、
あなたがたの光をこの世から隠して。

そうして、あなたがたは、
自分の救い主を十字架にかけた。」

会衆 主よ、憐れんでください。

司式 「わたしは、あなたがたに、
わたしの王権の鍵を渡した。
けれども、あなたがたは、
見知らぬ人を追い出している。
わたしが開いた扉を閉じてしまった。
そうして、あなたがたは、
自分の救い主を十字架にかけた。」

会衆 主よ、憐れんでください。

司式 「わたしは、あなたがたに平和を与えた、
そして、あなたがたに
思いやりを身に着けさせた。
けれども、あなたがたは、
わたしの着物を引き裂いた、
わたしがデザインしたものを。

そうして、あなたがたは、
自分の救い主を十字架にかけた。」

会衆 主よ、憐れんでください。

司式 「わたしは、あなたがたに聖霊を送った、
あなたがたを恵みによって
力づけるために。
けれども、あなたがたは、
自分自身のやり方を信じている、
わたしのよき賜物を無駄にしてしまつて。
そうして、あなたがたは、
自分の救い主を十字架にかけた。」

会衆 主よ、憐れんでください。

司式 「わたしは、
あなたがたの間に宿るために来た、
受肉した御言葉として。
けれども、あなたがたは
困窮している隣人を無視している、
わたしの顔を認めようとしないで。
そうして、あなたがたは、
自分の救い主を十字架にかけた。」

会衆 主よ、憐れんでください。

◆罪の赦しの宣言

司式 しっかりしなさい。
わたしたちの主イエス・キリスト、神の子は、
人間の営みをご存じなのです。
わたしたちの痛みの深さを感じてください、

わたしたちの弱さに共感してくださいませ。
無知やわがままを柔和に扱ってください、
わたしたちの永遠の救いの源と
なっています。

◆祈り

司式 神よ、
わたしどもは、十字架の間近に立ちます、
動揺し、取り乱し、落胆しながらも。
なお、わたしどもは、弟子として、ここに集
まっております、主イエスの愛してくださ
つた弟子として。
十字架で苦しむ顔のうちに、われらの救
い主の御顔をお示ください。
十字架の示す悪の陰のうちに、あなたさ
まの恵みの光を見させてください。
この大いなる厳肅さに覆われた日に、
われらの主、イエス・キリストの大きく伸ば
された御腕によって示される、全世界に
対するあなたさまの大いなる愛の証人とし
て、わたしどもを立たせてください。

一同 アーメン

◆讚美歌 313 「愛するイエス」

◆聖霊の照らしを求める祈り

司式 「わたしは真理を証しするために来た」と、
主は言われました。
「真理とは何か」と、わたしどもは返します。
わたしどもの心を開いてくださり、
あなたさまの真理を知る者としてください。
主よ、
今、わたしどもに、
あなたさまの真理をお語りください。

一同 アーメン

◆聖書朗読

マタイによる福音書27章1～61節

1夜が明けると、祭司長たちと民の長老たち一同
は、イエスを殺そうと相談した。2そして、イエ
スを縛って引いて行き、総督ピラトに渡した。
3そのころ、イエスを裏切ったユダは、イエスに
有罪の判決が下つたのを知って後悔し、銀貨三
十枚を祭司長たちや長老たちに返そうとして、4
「わたしは罪のない人の血を売り渡し、罪を犯
しました」と言った。しかし彼らは、「我々の
知つたことではない。お前の問題だ」と言った。
5そこで、ユダは銀貨を神殿に投げ込んで立ち去

り、首をつって死んだ。⁶祭司長たちは銀貨を拾い上げて、「これは血の代金だから、神殿の収入にするわけにはいかない」と言い、⁷相談のうえ、その金で「陶器職人の畑」を買い、外国人の墓地にすることにした。⁸このため、この畑は今日まで「血の畑」と言われている。⁹こうして、預言者エレミヤを通して言われていたことが実現した。「彼らは銀貨三十枚を取った。それは、値踏みされた者、すなわち、イスラエルの子らが値踏みした者の価である。¹⁰主がわたしにお命じになったように、彼らはこの金で陶器職人の畑を買い取った。」

¹¹さて、イエスは総督の前に立たれた。総督がイエスに、「お前がユダヤ人の王なのか」と尋問すると、イエスは、「それは、あなたが言っていることです」と言われた。¹²祭司長たちや長老たちから訴えられている間、これには何もお答えにならなかった。¹³するとピラトは、「あのようにお前に不利な証言をしているのに、聞こえないのか」と言った。¹⁴それでも、どんな訴えにもお答えにならなかったので、総督は非常に不思議に思った。

¹⁵ところで、祭りの度ごとに、総督は民衆の希望する囚人を一人釈放することにしてきた。¹⁶そのころ、バラバ・イエスという評判の囚人がいた。¹⁷ピラトは、人々が集まって来たときに言った。「どちらを釈放してほしいのか。バラバ・イエスカ。それともメシアといわれるイエスカ。」¹⁸人々がイエスを引き渡したのは、ねたみのためだと分かっていたからである。¹⁹一方、ピラトが裁判の席に着いているときに、妻から伝言があった。「あの正しい人に関係しないでください。その人のことで、わたしは昨夜、夢で随分苦しめられました。」²⁰しかし、祭司長たちや長老たちは、バラバを釈放して、イエスを死刑に処してもらうようにと群衆を説得した。²¹そこで、総督が、「二人のうち、どちらを釈放してほしいのか」と言うと、人々は、「バラバを」と言った。²²ピラトが、「では、メシアといわれているイエスの方は、どうしたらよいか」と言うと、皆は、「十字架につけろ」と言った。²³ピラトは、「いったいどんな悪事を働いたというのか」と言ったが、群衆はますます激しく、「十字架につけろ」と叫び続けた。²⁴ピラトは、それ以上言っても無駄なばかりか、かえって騒動が起こりそうなを見て、水を持

って来させ、群衆の前で手を洗って言った。「この人の血について、わたしには責任がない。お前たちの問題だ。」²⁵民はこぞって答えた。「その血の責任は、我々と子孫にある。」²⁶そこで、ピラトはバラバを釈放し、イエスを鞭打つてから、十字架につけるために引き渡した。

²⁷それから、総督の兵士たちは、イエスを総督官邸に連れて行き、部隊の全員をイエスの周りに集めた。²⁸そして、イエスの着ている物をはぎ取り、赤い外套を着せ、²⁹茨で冠を編んで頭に載せ、また、右手に葦の棒を持たせて、その前にひざまずき、「ユダヤ人の王、万歳」と言って、侮辱した。³⁰また、唾を吐きかけ、葦の棒を取り上げて頭をたたき続けた。³¹このようにイエスを侮辱したあげく、外套を脱がせて元の服を着せ、十字架につけるために引いて行った。

³²兵士たちは出て行くと、シモンという名前のキレネ人に出会ったので、イエスの十字架を無理に担がせた。³³そして、ゴルゴタという所、すなわち「きれこうべの場所」に着くと、³⁴苦いものを混ぜたぶどう酒を飲ませようとしたが、イエスはなめただけで、飲もうとされなかった。³⁵彼らはイエスを十字架につけると、くじを引いてその服を分け合い、³⁶そこに座って見張りをしていた。³⁷イエスの頭の上には、「これはユダヤ人の王イエスである」と書いた罪状書きを掲げた。³⁸折から、イエスと一緒に二人の強盗が、一人は右にもう一人は左に、十字架につけられていた。³⁹そこを通りかかった人々は、頭を振りながらイエスをののしって、⁴⁰言った。「神殿を打ち倒し、三日で建てる者、神の子なら、自分を救ってみろ。そして十字架から降りて来い。」⁴¹同じように、祭司長たちも律法学者たちや長老たちと一緒に、イエスを侮辱して言った。⁴²「他人は救ったのに、自分は救えない。イスラエルの王だ。今すぐ十字架から降りるがいい。そうすれば、信じてやろう。⁴³神に頼っているが、神の御心ならば、今すぐ救ってもらえ。『わたしは神の子だ』と言っていたのだから。」⁴⁴一緒に十字架につけられた強盗たちも、同じようにイエスをののしった。

⁴⁵さて、昼の十二時に、全地は暗くなり、それが三時まで続いた。⁴⁶三時ごろ、イエスは大声で叫ばれた。「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見

捨てになったのですか」という意味である。⁴⁷そこに居合わせた人々のうちには、これを聞いて、「この人はエリヤを呼んでいる」と言う者もいた。⁴⁸そのうちの一人が、すぐに走り寄り、海綿を取って酸いぶどう酒を含ませ、葦の棒に付けて、イエスに飲ませようとした。⁴⁹ほかの人々は、「待て、エリヤが彼を救いに来るかどうか、見ていよう」と言った。⁵⁰しかし、イエスは再び大声で叫び、息を引き取られた。⁵¹そのとき、神殿の垂れ幕が上から下まで真っ二つに裂け、地震が起こり、岩が裂け、⁵²墓が開いて、眠りについていた多くの聖なる者たちの体が生き返った。⁵³そして、イエスの復活の後、墓から出て来て、聖なる都に入り、多くの人々に現れた。⁵⁴百人隊長や一緒にイエスの見張りをしていた人たちは、地震やいろいろの出来事を見て、非常に恐れ、「本当に、この人は神の子だった」と言った。⁵⁵またそこでは、大勢の婦人たちが遠くから見守っていた。この婦人たちは、ガリラヤからイエスに従って来て世話をしていた人々である。⁵⁶その中には、マグダラのマリア、ヤコブとヨセフの母マリア、ゼベダイの子らの母がいた。⁵⁷夕方になると、アリマタヤ出身の金持ちでヨセフという人が来た。この人もイエスの弟子であった。⁵⁸この人がピラトのところに行って、イエスの遺体を渡してくれるようにと願い出た。そこでピラトは、渡すようにと命じた。⁵⁹ヨセフはイエスの遺体を受け取ると、きれいな亜麻布に包み、⁶⁰岩に掘った自分の新しい墓の中に納め、墓の入り口には大きな石を転がしておいて立ち去った。⁶¹マグダラのマリアともう一人のマリアとはそこに残り、墓の方を向いて座っていた。

◆黙想

◆とりなしの祈り

司式 贖いの主、
わたしどもは、あなたさまに向かって叫び
声を上げます、
この世界の苦しみのゆえに。

会衆 [沈黙]

司式 わたしどもは、近くの、また遠くの、教会の
ために祈ります。

わたしどもがいつも、抑圧する側ではなく、
抑圧される側にいることができますように。

会衆 [沈黙]

司式 わたしどもは、信仰の賜物のために祈ります。
わたしどもが、苦しみのときにあってもあ
なたさまを信頼することができますように。
わたしどもは、また、苦しんでいる者のた
めに祈ります。
その人たちが、共にいてくださるあなたさ
まのご臨在を感じることができますように。

会衆 [沈黙]

司式 わたしどもは、苦境にあえぐ人々をおぼえ
て心配る者、また死に接している者のた
めに心砕く者のために祈ります。
わたしどもを通して、仕える者として生きる
彼らを強めてくださいますように。

会衆 [沈黙]

司式 わたしどもは、悲嘆にくれる人々のために
祈ります。
彼らは、十字架の足もとにひざまずくとき、
あなたさまの慰めを感じることでしょ

会衆 [沈黙]

司式 わたしどもは、自分の信仰と格闘している
すべての者のために祈ります。
あなたさまが共にいてくださることを知ろう
と苦闘しているとき、あなたさまの御顔が
彼らから隠されることはないでしょう。

会衆 [沈黙]

司式 わたしどもは、地上のすべての家族とす
べての民族のために祈ります。
彼らがあなたさまを思い覚まし、立ち返り、
平和を見出しますように。

会衆 [沈黙]

司式 わたしどもは、われらの偉大なる大祭司
の御名によって祈ります。
イエス・キリスト、御父の御子、われらの主よ。

一同 アーメン

◆讚美 298「ああ主は誰がため」

◆退堂